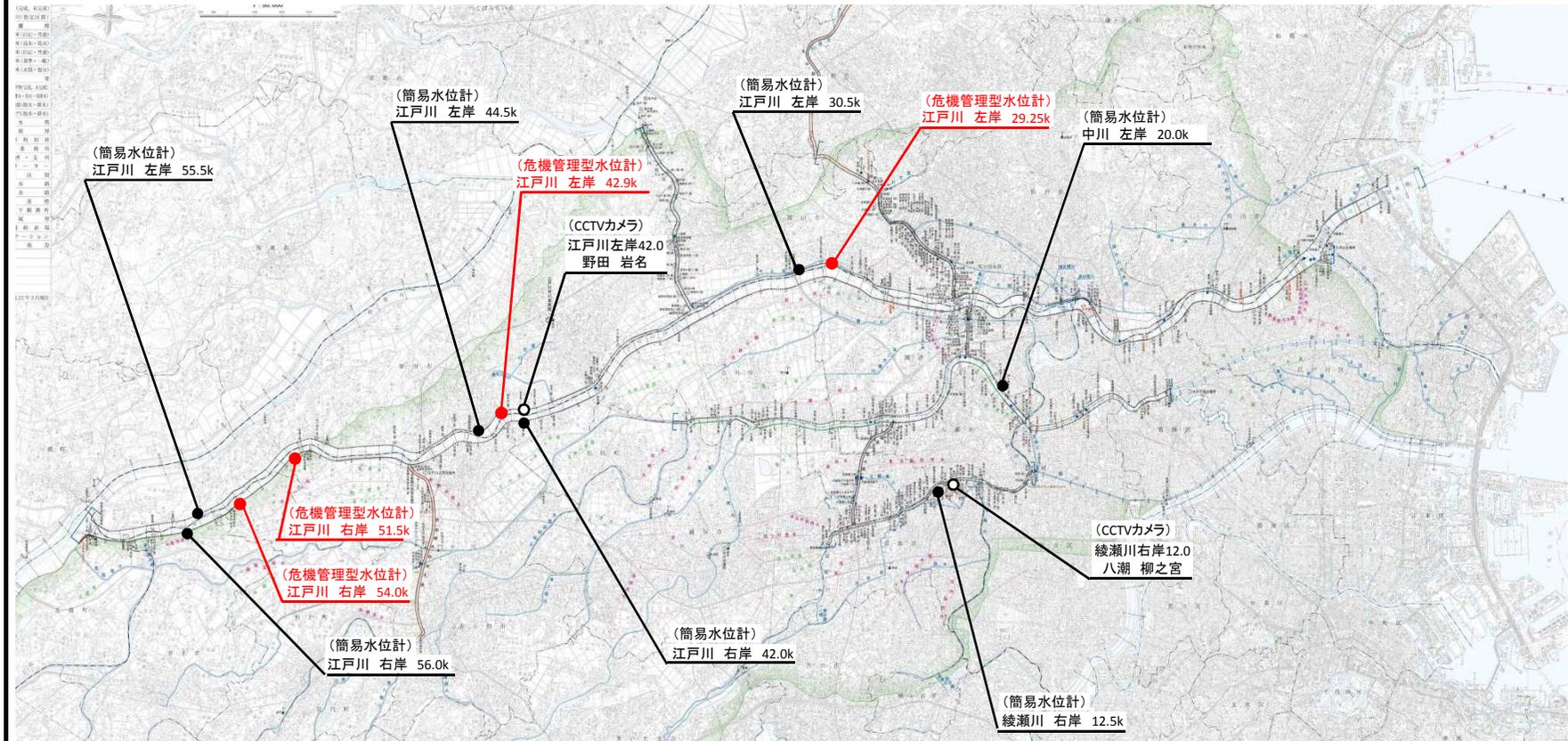


平成30年度における国交省の主な取組

- ①危機管理型水位計の設置
- ②堤防の整備状況(江戸川、中川・綾瀬川)
- ③緊急速報メールを活用した洪水情報の配信
- ④広域避難計画に係る基礎調査
- ⑤排水作業準備計画の作成
- ⑥防災教育支援
- ⑦「気象キャスターと学ぶ防災教室」の開催
- ⑧地方公共団体防災担当者向け気象防災ワークショッププログラム

①危機管理型水位計の設置

位置図



【情報提供について】

- ・危機管理型水位計 = (提供方法): 川の水位情報 (提供時期): 配信中
- ・簡易水位計 = (提供方法): 川の防災情報 (提供時期): 配信中
- ・CCTVカメラ = (提供方法): 江戸川河川事務所HP (提供時期): 配信中

凡 例	
●	危機管理型水位計
●	簡易水位計
○	CCTVカメラ

①危機管理型水位計の設置(川の水位情報)

平成30年6月1日から、河川管理者や住民等がスマートフォン、タブレット、PC等を用いて、危機管理型水位計の水位データを簡単に閲覧することができるシステムの運用を開始しました。

➡アクセスはこちらから <https://k.river.go.jp/> (パソコン・スマートフォン共通)

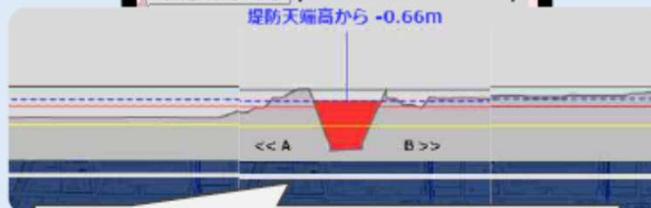


3つの主な機能

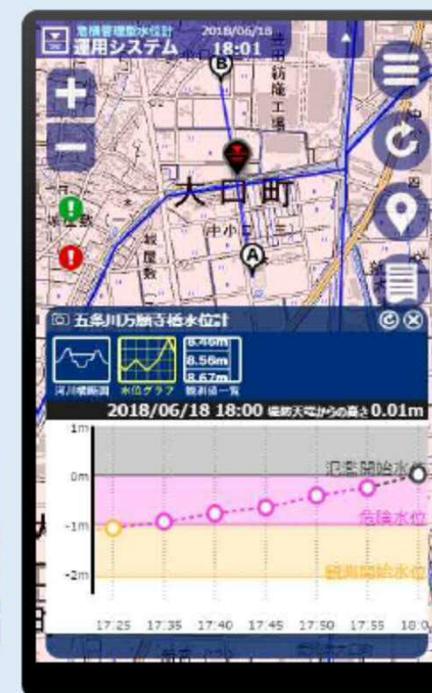
観測所の一覧画面から観測地点を選択すると自動でズームし、その観測地点の河川水位を簡単にみられます。

河川周辺の土地の高さとリアルタイムの河川水位が重ねて表示され、氾濫した場合の危険度がわかります。

リアルタイムの河川水位に対応して表示の色が変化し、氾濫の危険度がわかります。



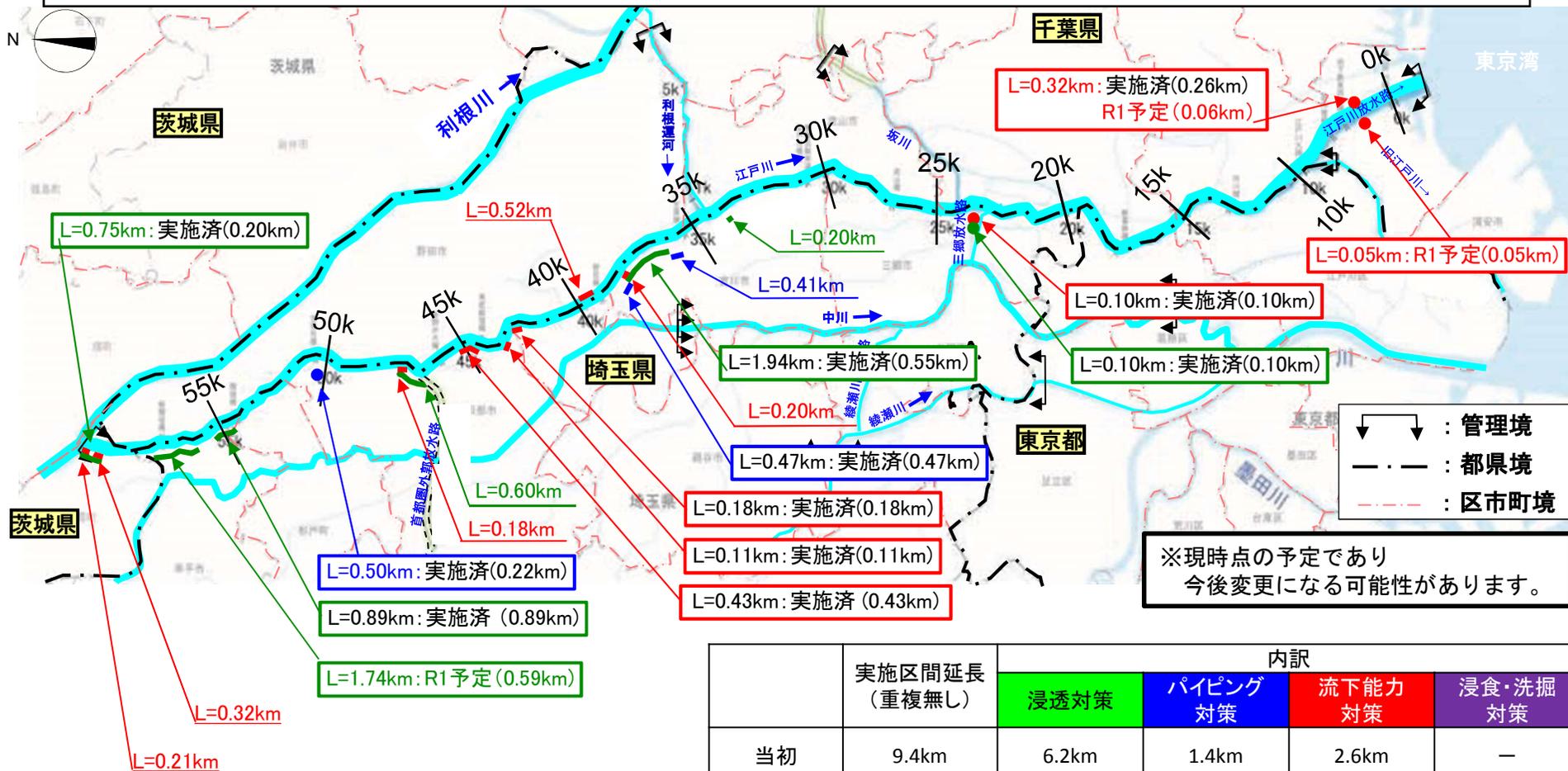
スライドさせて周辺の土地の高さを見れます。



②堤防の整備状況(江戸川)

ハード対策

○江戸川において優先的に実施する堤防整備等(堤防天端舗装含む)



凡 例			
■	浸透対策	■	パイピング対策
■	流下能力対策	■	浸食・洗掘対策

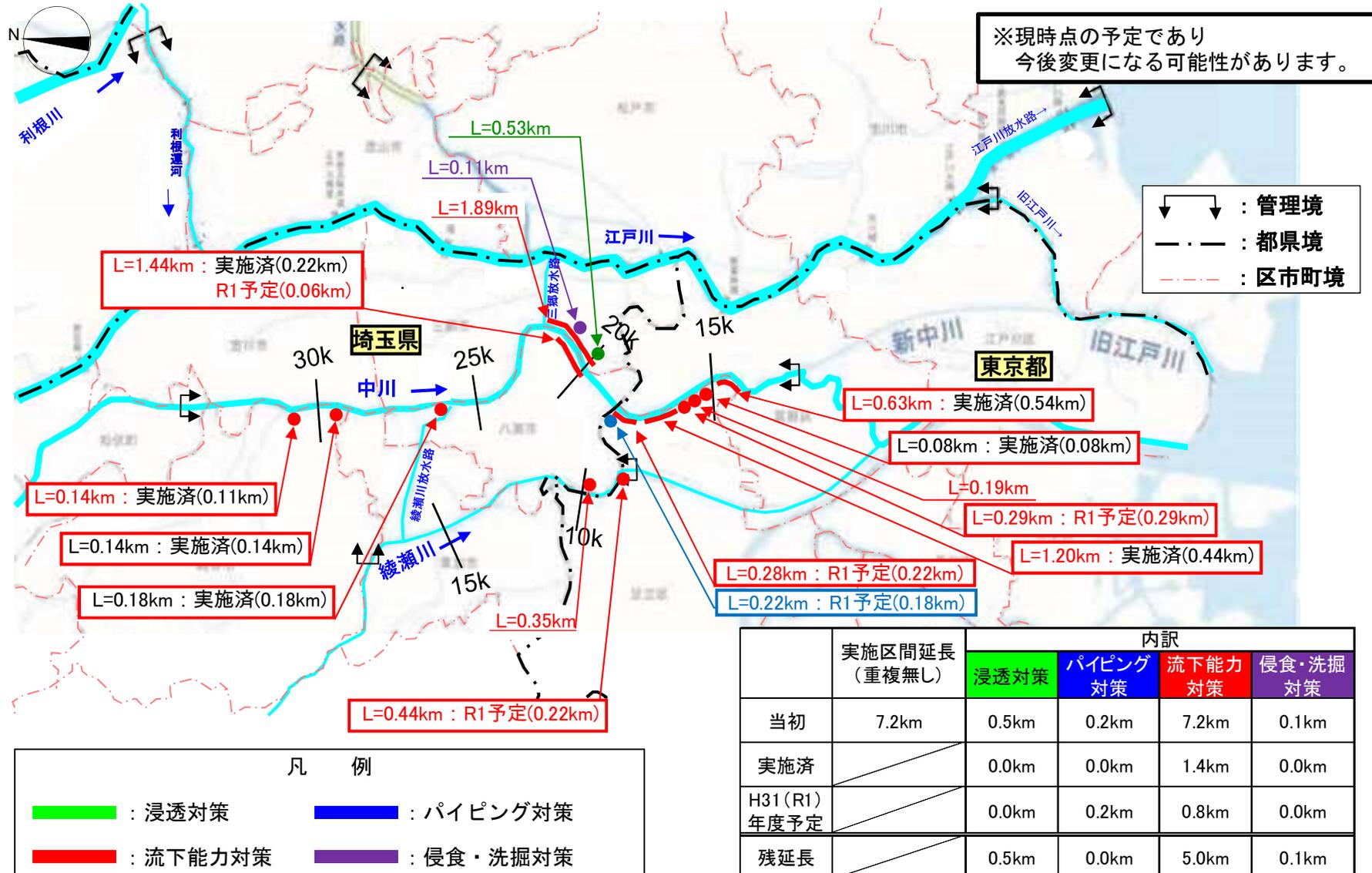
	実施区間延長 (重複無し)	内訳			
		浸透対策	パイピング 対策	流下能力 対策	浸食・洗掘 対策
当初	9.4km	6.2km	1.4km	2.6km	—
実施済		1.7km	0.7km	1.1km	—
H31(R1) 年度予定		0.6km	0.0km	0.1km	—
残延長		3.9km	0.7km	1.4km	—

※四捨五入の関係で、計算値が一致しない場合がある。

②堤防の整備状況(中川・綾瀬川)

ハード対策

○中川・綾瀬川において優先的に実施する堤防整備等(堤防天端舗装含む)



※四捨五入の関係で、計算値が一致しない場合がある。

③緊急速報メールを活用した洪水情報の配信

流域住民の主体的な避難を促進するために配信する情報として、江戸川、中川・綾瀬川においてプッシュ型のメール配信※を平成30年5月1日から開始。

配信のタイミング

- ・ 氾濫危険情報（レベル4）発表時
- ・ 氾濫発生情報（レベル5）発表時

※プッシュ型配信とは、受信者が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組みのことです。

洪水情報のプッシュ型配信イメージ

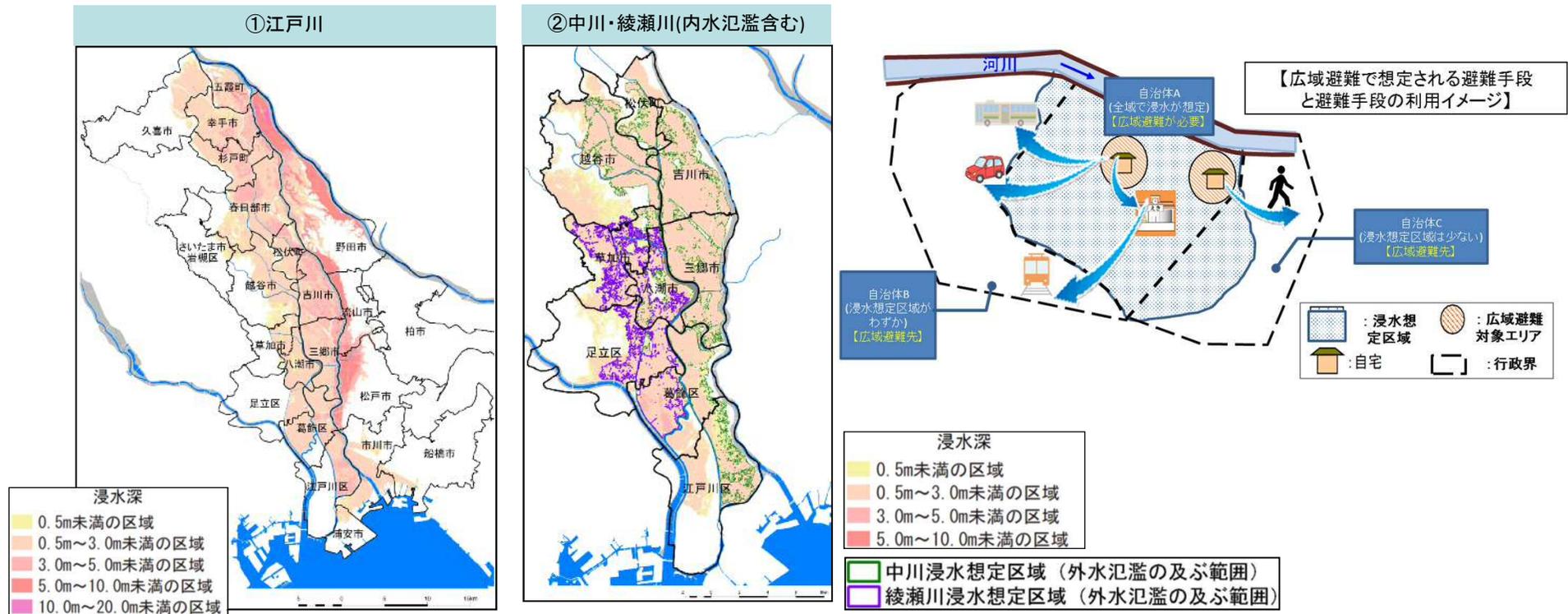


④広域避難計画に係る基礎調査

- 江戸川及び中川・綾瀬川の洪水浸水想定によると、対象22自治体のうち、8自治体がほぼ全域浸水する結果となり、市区町を越えた広域避難計画が必要である。
- 平成29年度から広域避難計画の検討を行い、大規模水害からの「逃げ遅れゼロ」を目指す。
- 広域避難計画の策定は各自治体で実施、広域避難に係る基礎的な調査・検討を国で実施。

【平成30年度の検討概要】

対象とする浸水ケースの設定 全13ケース(江戸川8ケース、中川・綾瀬川5ケース)

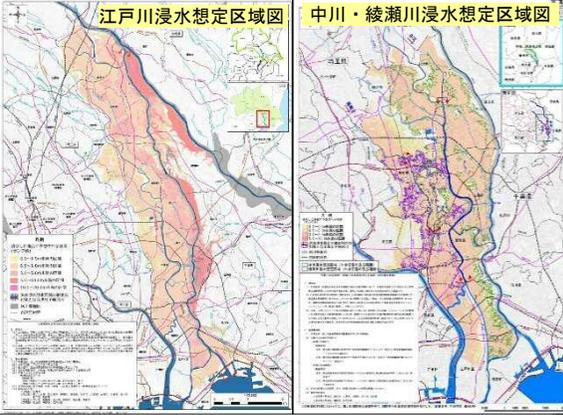
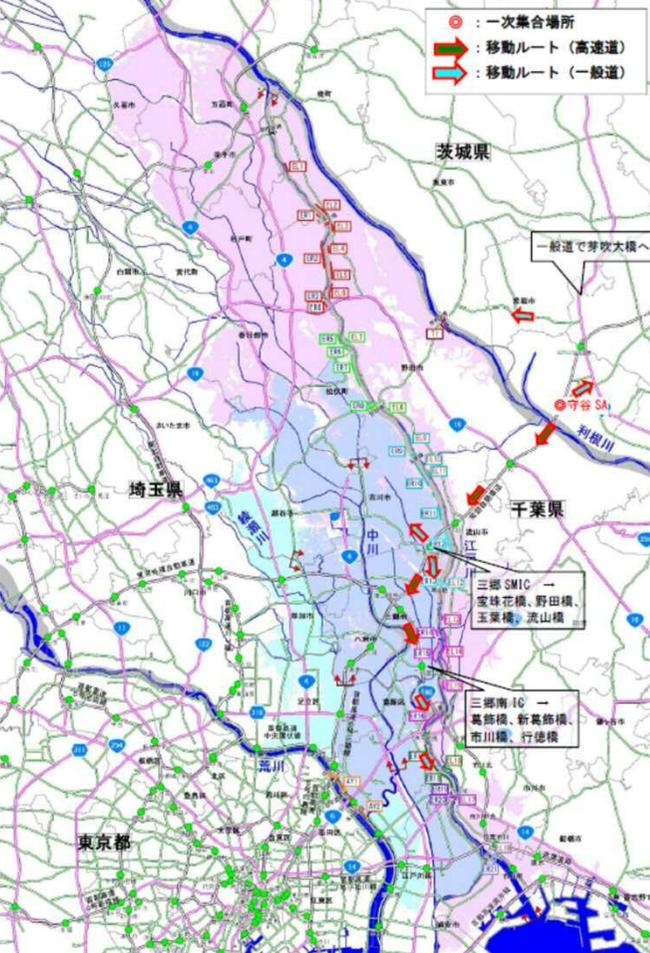
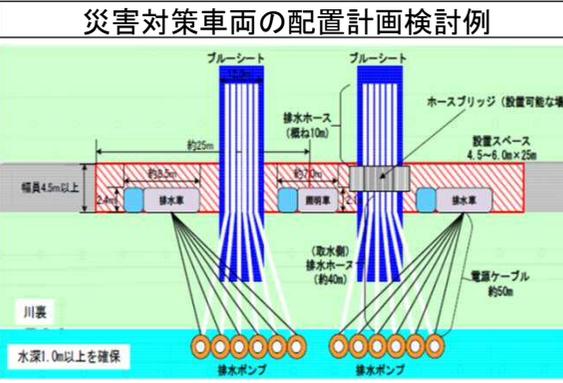


【令和元年度以降の予定】

◎関係自治体の広域避難計画策定に向けた検討を支援

⑤排水作業準備計画の作成

- 想定最大規模降雨を対象とした洪水浸水想定に対し、人命救助、孤立避難者の救出、早期の復旧復興等のための広域支援ルート確保を目的に、「特定緊急水防活動（水防法第32条）」を踏まえ、道路啓開等と連携しつつ国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所が主体となって実施する排水活動の方法・手順を「江戸川河川事務所管内（江戸川、中川・綾瀬川）の排水作業準備計画」として作成。

検討項目	対象とする洪水浸水想定区域の設定	配置箇所及び運搬経路の設定例
<p>I 基本事項の整理 公表された洪水浸水想定区域図 防災関連施設、既設排水施設 広域防災拠点の設定 災害対策用機材、資機材の保有状況の整理 災害対策車両の一次待機場所の設定</p>	<p>江戸川浸水想定区域図 中川・綾瀬川浸水想定区域図</p> 	<p>配置箇所及び運搬経路の設定例</p> 
<p>II 災害対策車両の配置計画の作成 氾濫特性の把握 災害対策車両の配置計画 ・災害対策車両保有台数の把握、 ・運搬所要時間、運搬経路の設定、 ・配置に関する諸条件、配置箇所検討</p>	<p>災害対策車両の配置計画検討例</p> 	
<p>III 排水シミュレーションの実施 排水ポンプ車による排水活動の効果算定 時系列浸水深の把握 浸水継続時間の短縮時間の算定 等</p>		
<p>IV その他基礎資料の整理 ・排水ブロック分割 ・ブロック別排水施設稼働状況の整理 排水ポンプ車配置箇所の詳細平面・横断面図 排水シミュレーション結果の詳細</p>		
<p>【令和元年度以降の予定】 排水作業準備計画を策定後、計画に基づいた訓練等の実施を行っていく。</p>		

⑥防災教育支援

江戸川河川事務所では、大規模水害に対し「逃げ遅れゼロを目指す」ことを目的に、沿川の小学校、中学校と連携・協力を行い、平成29年度行った小学校4年生社会科に引き続き、**平成30年度は小学校5年生理科及び中学校社会科**の学習指導要領（平成29年告示）を基に、「河川に関わる資料」を付した『防災教育学習指導計画（案）』の作成支援を実施。

作成にあたり、実際の教育現場における意見を反映するため、担当教諭や教育委員会担当者との意見交換、防災教育の取組状況の聞き取り、具体的な記載内容や写真等の検討、調整を実施。

江戸川河川事務所

防災学習「素材」の作成・提供



連携・協力

三郷市教育研究会社会科部会
 三郷市社会科副読本編集委員会
 三郷市立彦郷小学校
 三郷市立早稲田中学校



防災教育学習指導計画(案)作成にあたっての江戸川河川事務所と中学校との打合せ状況(H30.9.3)



三郷市教育委員会、小学校教諭を対象に防災教育に関する講演会を実施、小学校4年生社会科副読本の作成支援(H30.8.23)

⑥防災教育支援



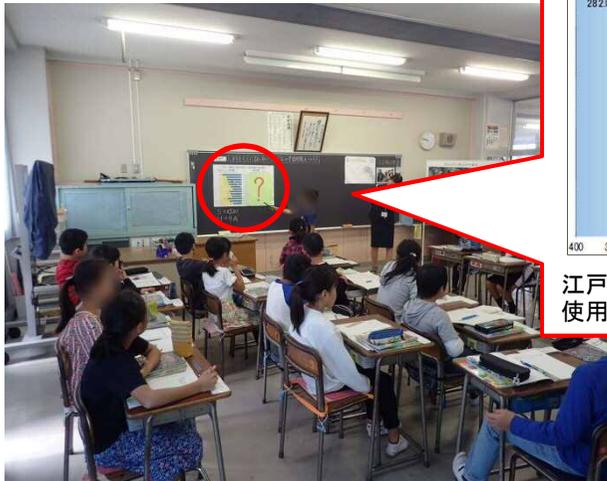
H29年度に支援を行った川口市立戸塚北小学校へのフォローアップ・打合せ (H30.7.25)



江戸川区立北小岩小学校で行った、水害や防災に関する出前授業の実施状況 (H31.2.18)



埼玉県立吉川美南高校で行った、水防災に関する出前講座の実施状況 (H30.10.25)



川口市立戸塚北小学校にて行われた全国小学校社会科研究協議会研究大会の実施状況 (H30.10.26)



江戸川河川事務所提供資料を授業で使用



全国大会会場にて、防災教育指導計画(案)を200部 配布



足立区第18地区自治会にて行った、水害コミュニティ・タイムライン策定検討会における氾濫リスク等に関する講演会の実施状況 (H30.5.29)

出席者によるコミュニティ・タイムラインの検討実施状況 (H30.5.29)

⑦「気象キャスターと学ぶ防災教室」の開催

防災教育の促進に向けた取組の一つとして、7月31日(火)に「気象キャスターと学ぶ防災教室」を開催しました。

本教室は、児童・生徒が水防災に関する知識や理解を深めるための一助となることを目的に、主に教職員を対象にして、気象キャスターによる防災に関する講義と治水施設(外郭放水路)の現場見学を行いました。

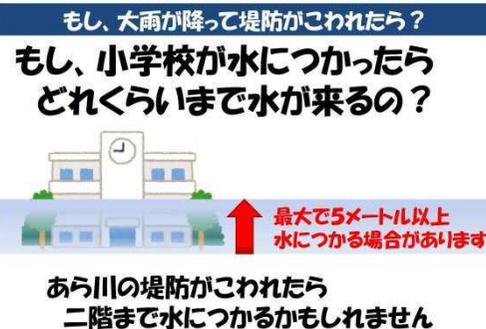
- 日 時:平成30年7月31日(火) 13:00~17:00
- 場 所:首都圏外郭放水路
- 参加者:さいたま市の教職員など 約20名
講師 気象キャスター 井田 寛子さん
- 内 容:1.大雨に備える
2.地域の災害リスクを学ぶ
3.大雨の際の避難方法
4.施設見学(外郭放水路)



講義の様子



施設見学の様子



「子どもたちを水災害から守るために何を伝えるべきか?」をテーマに、急な大雨への備えや地域の災害のリスク、大雨の際の避難方法について気象キャスターから説明しました。

さらに、事務所職員から、外郭放水路の水災害を防ぐ効果や大雨の時の操作内容について説明しました。

参加した小学校の先生からは、「水害に対する準備の必要性をととても感じた」等の意見もあり、今後は学校の教育活動を通じて、児童・生徒に水防災の知識が伝わることを期待されます。

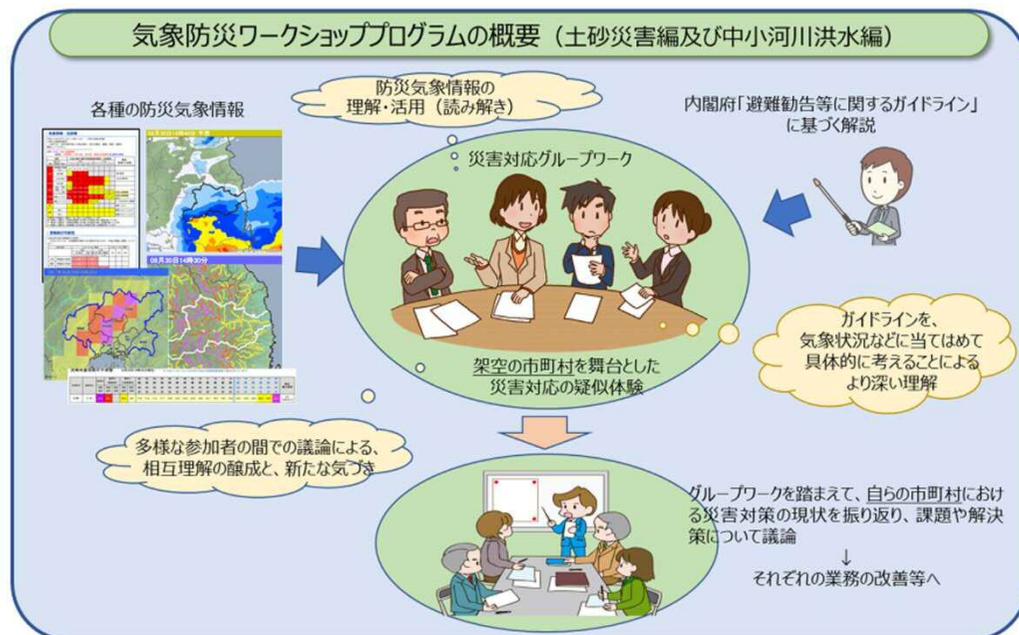
地方公共団体防災担当者向け

気象防災ワークショップ プログラム

東京管区気象台

- ◆ 地方公共団体の防災担当の方に、防災気象情報を理解していただき、利活用のポイントを学んでいただくことを目指して開発（平成30年5月公開）
- ◆ 内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」の考え方に基づいて、防災気象情報を活かした防災対応を、ワークショップ形式により疑似体験
 - 防災体制強化のタイミング、避難に関する判断
- ◆ プログラムは気象庁ホームページに掲載

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jma-ws2/index.html>



ワークショップ用資料

運営マニュアル

+

事前学習資料

+

教材

・土砂災害編 ・中小河川洪水災害編

東京都の区市町村向け勉強会にて実施
（平成31年2月6日）

